

## すんげえ人たちに会えるところ。

**亀田 満紀史**さん

東京芸術大学 彫刻科4年  
2018年度 彫刻日曜専科  
東邦高校出身



タイトル通り、すんげえ人たちに会えます！そもそも教授陣が国内外で活躍する有名作家。彫刻論という彫刻科主催の授業で招待される講師は、タイムリーに活躍するVIPな作家ばかり。そんな人たちに、自分の作品、自分が考えていることを気軽に話すことができる。こんな機会を与えてくれる大学は他にはないと思います。僕もある作家に彫刻論の授業で出会い、感銘を受け、さらに話がかしたい！とわざわざドイツまで行きました。そもそも、東京23区のだ真ん中にあるというだけで素晴らしいこと。銀座や六本木の有名ギャラリーには行き放題。もちろん、近くの国立博物館や科学博物館、西洋美術館などは、キャンパスメンバーズでいつでも無料で入館できる。自分の知識やスキル

を身につける環境が大学内外でしっかり整っています。

そして何よりも、河合塾美術研究所名古屋校の塾生は特に芸大の彫刻科で活躍しやすいと思います。それは教授や先輩に河合塾出身の方が多いからです。みなさんとっても優しく、地方の人間が上京して緊張していることを理解して、気軽にアドバイスしてくれます。

ちょっと不満があるといえば、物価が高い、東京の実家暮らしの方が場所もお金もあってフェアじゃない、という点でしょうか。ま、それはそれで住めば都。アルバイトも下宿先もアトリエも、心配する必要はありません。なぜなら僕たちOB・OGがいるから！

それではみなさん、芸大でお待ちしております！



1



2



3



4

1. 1年次テラコッタ実習作品  
2. 3年次発表作品①

3. 3年次発表作品②  
4. 卒業制作 制作風景

## 大学生活の中で何を追い求めるか。

**土田 祐加**さん

愛知県立芸術大学 彫刻専攻4年  
2016年度 基礎高1・2年専科／2017年度 彫刻専科／2018年度 彫刻本科  
尾北高校出身



大学に入ってから立体だけではなく、絵画や映像、インスタレーション、パフォーマンスなどさまざまな表現に触れる機会があります。こういった表現を選択するかも自由ですし、彫刻科ではありますが立体のみをつくる必要はありません。ですので美術を学ぶ入口として、立体や彫刻に興味がある方は彫刻科を選択して、学んでみたいと思います。

最近自身の制作では今一度いろいろな表現を取り入れていき、挑戦しては学んでを繰り返しながら、作品を通してさまざまな事柄とどう関わりうるのかを考えています。制作する中でこれから皆さんも考えたり、時には悩む機会があるとは思いますが、どうかつくることへのフラットで純粋な気持ちを忘れずに、制作を進めていただけたらと思います。

大学の中にも外にも魅力的な事柄がたくさんあります。それらに触れながら私が4年間愛知県立芸術大学に通わせていただいて、学んだ大きなことは彫刻や芸術についての多様なあり方でした。

人と芸術はすごく密接な関係性にあると思います。それは人の歴史の中で育まれて一緒に生きてきたもので、人も社会も芸術も時代と共に変化し続けてきたからこそ感じるものなのかもしれません。なのでぜひたくさんの方の場所や人に触れ皆さんの世界を広げていってください。物事をみる眼、感覚を養うことはきっと皆さんの宝物になると思います。

今に何を発見するのか、皆さんのこれから制作される作品たちとどうか会えることを、楽しみにしております。たとえどこであっても皆様にとってよい人生の時間を過ごせますように。



1



2



3



4

1. 海を思ふ  
2. ある めぐる  
3. アイマイモココ  
4. 大学風景

## 作家活動の芯となった河合塾。

**西村 卓**さん  
彫刻家

**多摩美術大学** 大学院美術研究科彫刻専攻前期博士課程（修士課程）修了  
**多摩美術大学** 彫刻学科卒業  
2007年度 基礎高1・2年専科／2008年度 彫刻専科／2009年度 彫刻本科  
南山高校（男子部）出身



僕が美大へ進学しようと思ったのは、高校2年生の春でした。高校は普通科しかなく、デッサンすらしたことがありませんでした。美大をめざしたきっかけは「ノートの端っこに描いた落書きを前の席の友達に褒められたから」。その小さな喜びを胸に飛び込んだ美大への道は、僕にとって先の見えない険しい道のりでした。

入塾してすぐに僕はとても不器用で、壊滅的にデッサン力がないことを思い知りました。

何度思い返しても、本当にできの悪い生徒だったと思います。

基礎科ではうまく描ける周囲を見ては落ち込んでしまう日々でした。そんなときに先生のすすめで、彫刻科の体験授業を受講しました。生まれて初めて実際に生きているニワトリを前に彫刻をつくり、身体全体を使って造形する楽しさや喜びに衝撃を受けたことを今でも鮮明に覚えています。直感的に彫刻科しかないと感じました。

3年生になり、意気揚々と彫刻科へ進んだのですが、僕の壊滅的なデッサン力は相変わらずでした。コンクールでは常にビリ、その年の

受験はすべて不合格。

浪人生になっても全然うまくいかず、万年ビリでした。それでも続けられたのは、先生方の厳しくも愛にあふれるご指導のおかげです。

なんとか多摩美大に合格し、同大学院へ進学しました。

在学中はとにかく作品制作に打ち込み、同時に学外での個展やグループ展を精力的に開催しました。その活動を認めてもらい、同大学の助手も務めさせていただきました。

今は小さなアトリエを構え、彫刻家として作品発表のほか、ワークショップやさまざまなジャンルの方や企業とのコラボレーションなど領域を横断しながら活動しています。

最後の最後まであきらめないこと、本気で作品と向き合うこと、作品に責任を持つこと、自分の作品を愛すること、自分が自分らしくあること。

河合塾で教わったことは、今の作家活動の芯となって今も僕を支えてくれています。



1. DREAMS・2014年制作 2. 可動産シリーズ 3. 個展「拡張都市」展示風景（2018年）・銀座葛屋 4. 個展「埋める／埋もれる」展示風景（2021年）